

インバウンドの「変化の兆し」をいち早く 都道府県別訪日外客数と訪問率

月次指標の早期推計：6月レポート

稲田義久（APIR 研究統括兼数量経済分析センター長）
松林洋一（APIR 主席研究員）
野村亮輔（研究推進部）
内容に関するお問い合わせは下記まで
e-mail:nomura-r@apir.or.jp

ポイント

●6月都道府県別訪日外客数と訪問率の早期推計*

▶6月の関西2府8県別に訪日外客数(推計値)をみると

(表1及び図1)、福井県4人、三重県17人、滋賀県22人、京都府596人、大阪府796人、兵庫県136人、奈良県168人、和歌山県13人、鳥取県7人、徳島県7人となった。伸び率は奈良県、和歌山県、鳥取県で前年同月比-100.0%、それ以外の府県では同-99.9%となった。依然、インバウンド需要は厳しい状況となっている。

▶運輸局別では(表1)、北海道176人、関東1,352人、中部309人、近畿955人、九州222人となった。

▶6月の訪問率(推計値)を関西2府8県別にみると(表2及び図6)

福井県0.2%、三重県0.6%、滋賀県0.9%、京都府22.9%、大阪府30.6%、兵庫県5.2%、奈良県6.5%、和歌山県0.5%、鳥取県0.3%、徳島県0.3%となった。前月から訪問率が上昇したのは京都府、大阪府、奈良県、和歌山県、鳥取県、一方低下したのは福井県、滋賀県、兵庫県、徳島県であった。なお、三重県は横ばいであった。なお、今回1-3月期訪問率の実績値が公表されたため、更新して月次訪問率を新たに推計した。予測には新推計値を用いている。

●6月発表データのレビュー

▶JNTO 訪日外客数推計値(表3及び図7)によれば、6月総数は2,600人(前年同月比-99.9%)となり、9カ月連続のマイナス。前月の過去最低値から幾分増加したものの、依然として低水準。

▶国・地域別のトップ5は、中国が300人、韓国が100人、米国が100人、ベトナムが100人、インドが70人で、訪日外客数は厳しい状況が続いている。いずれも伸びは前年同月比ほぼ-100.0%に近い値となっている。

▶東アジアの伸び率をみると中国、台湾、香港は5カ月連続、韓国は12カ月連続のマイナス。なお、日本政府は7月以降、ビジネス往来再開に向けて前月から既に交渉を始めているベトナムやタイ等に加えて、台湾やブルネイ等と交渉を始めるとしている。また、上記の国・地域以外にも、感染者が少なく、受け入れ後も感染拡大につながりにくい国・地域についての往来再開を目指している。

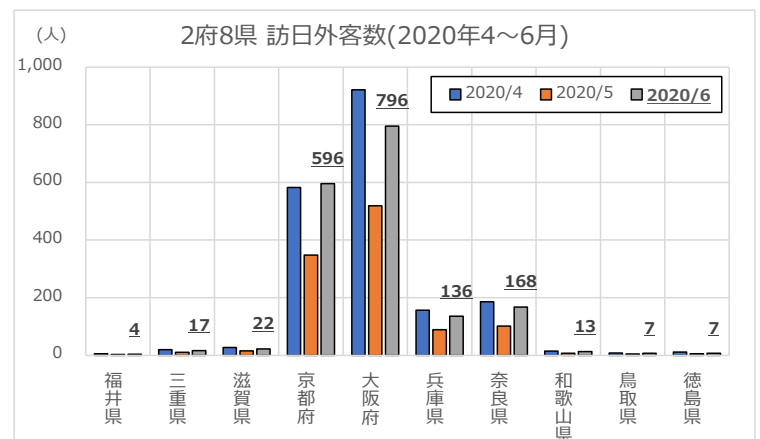
表1 都道府県別訪日外客数の早期推計表

訪日外客数	単位:人				
■府県ベース	2020/4	2020/5	2020/6	20Q1	20Q2
福井県	5	3	4	7,880	12
三重県	19	11	17	27,579	47
滋賀県	27	15	22	35,459	64
京都府	582	348	596	847,069	1,526
大阪府	921	519	796	1,315,911	2,236
兵庫県	157	89	136	220,632	382
奈良県	186	101	168	299,429	455
和歌山県	15	8	13	27,579	35
鳥取県	8	4	7	11,820	19
徳島県	11	6	7	15,759	24

■運輸局ベース	2020/4	2020/5	2020/6	20Q1	20Q2
北海道	334	155	176	450,677	665
関東	1,534	888	1,352	2,071,305	3,774
中部	328	191	309	442,506	828
近畿	1,010	590	955	1,364,549	2,555
九州	261	149	222	352,742	632

注:全目的(観光・レジャー目的以外も含む)の訪問率をもとに訪日外客数を推計している。なお、地方単位(運輸局ベース)で推計される訪問率と訪問者数は、地方内の複数訪問を1回とカウントしているため、都道府県の訪問者数を単純に合算した値とは異なることに注意。シャドウは実績値。

図1 都道府県別訪日外客数の3カ月比較図



注:数値は最新月の予測値。

* 早期推計は以下の手順で行われている。まず、四半期ベースの都道府県訪問率を月次化し、それを用いて時系列モデルを推計、その6カ月予測を行う。これに訪日外客数(JNTO)を乗じて、月次ベースの訪日外客数を推計している。訪問率の実績値が発表されるまでは、このルーティンが繰り返される。本手法は当研究所の日本経済月次予測で用いている超短期予測のアイデアを応用しており、詳細な推計方法については Trend Watch No.54(2019年5月)参照のこと。

トピックス

●6月関西国際空港：訪日外客数の動向

▶6月の関西国際空港(以下、関空)への訪日外客数は、578人で前月の過去最低値(181人)から幾分増加した。伸びは前年同月比-99.9%減少し、入国者はほとんどいない状況である(図2及び図5)。6月中旬よりフィリピン航空やシンガポール航空の運航が一部再開しているものの、依然政府の厳しい水際対策の強化が続いており、訪日外客数の回復は低調となろう。

●経済ショックからの回復の比較

▶関西6月の貿易動向を見ると、COVID-19感染拡大による世界経済減速の影響が輸出入ともにみられた(図3)。輸出額は前年同月比-14.1%減少し、4カ月連続のマイナス(前月:同-17.0%)。輸入額は同-2.2%減少し9カ月連続のマイナス(前月:同-19.7%)。前月に引き続き対欧米向けの輸出入の減少が影響した。結果、関西の貿易収支は1,029億円と5カ月連続の黒字となったが、貿易総額(輸出入合計)は前年比-8.8%減少し(前月:同-18.3%)、昨年9月を除けば19カ月連続で縮小している。

▶地域別の貿易動向をみると(図4)、関西6月の対中輸出額は前年同月比+2.9%増加し2カ月ぶりのプラス。中国の生産回復が影響しているようである。対中輸入額は同+12.6%増加し3カ月連続のプラスとなった。輸出増に寄与した品目は非鉄金属、半導体等製造装置で、輸入増に寄与した品目は事務用機器、織物用糸及び繊維製品であった。テレワーク需要に伴うパソコン及び周辺機器やマスクの需要増が寄与した。

▶6月の関空への訪日外客数は前年同月比-99.9%大幅減少し、5カ月連続のマイナス。2019年の関西での外国人消費額は1兆615億円と推計(APIR)されることから、6月のインバウンド需要の損失額は884億円(=10,615/12 × 関空への訪日外客数の減少率)と推計される。結果、2-6月期インバウンド需要の損失合計は4,078億円となる。

▶図5は関空訪日外客入国者数の動態をリーマンショック期、東日本大震災期と今回の3つの時期で比較したものである。6月の落ち込みは前月とほぼ同程度であった。関空では国際線の一部運行が再開されるなど、訪日外客の移動手段は幾分緩和されつつあるものの、便数は限定的であり、依然として厳しい入国制限措置が取られているため、訪日外客の急回復は期待しづらい。

図2 関西国際空港 訪日外客入国者数推移



出所:出入国管理統計より筆者作成。

2020年5月値は速報値(図5も同様)。

図3 関西 対世界貿易の推移

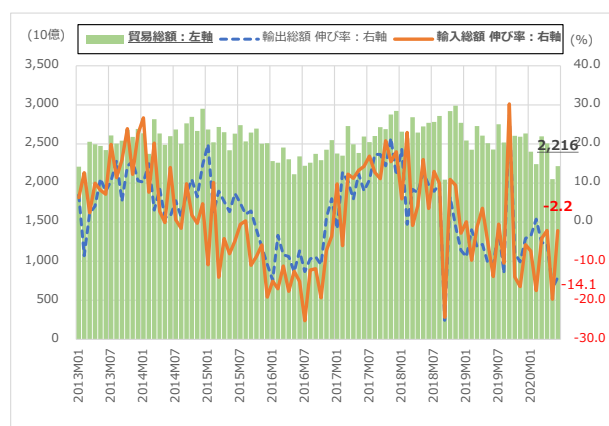
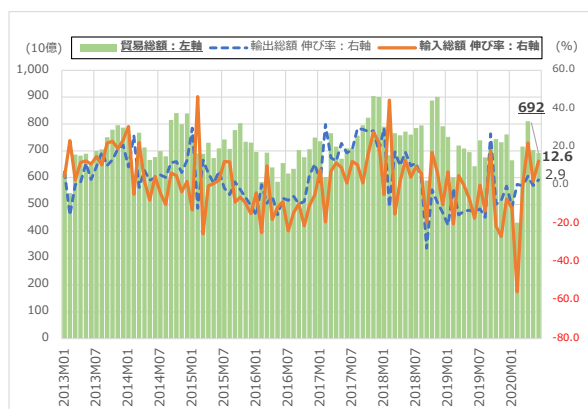


図4 関西 対中貿易の推移



出所:「大阪税関貿易速報資料:近畿圏」より筆者作成

図5 経済ショックからの回復の比較

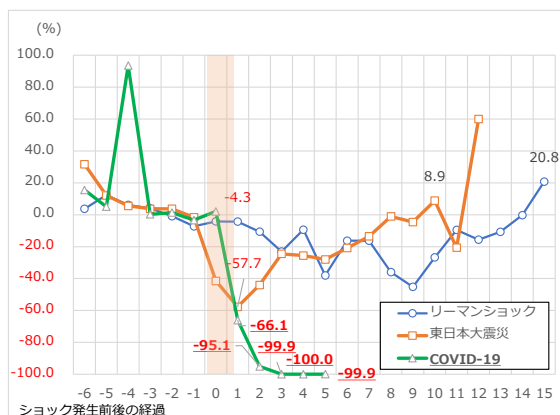
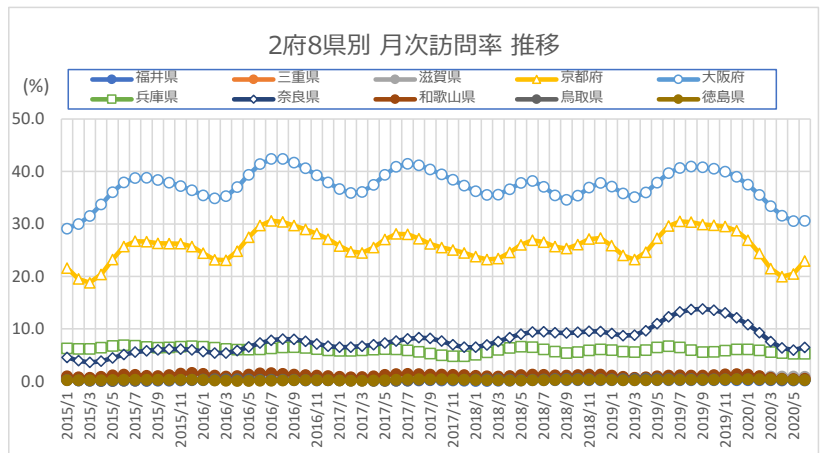


表2 月次訪問率の早期推計表

訪問率	単位:%				
	2020/4	2020/5	2020/6	20Q1	20Q2
■府県ベース					
福井県	0.19	0.17	0.15	0.20	0.15
三重県	0.66	0.64	0.64	0.70	0.64
滋賀県	0.92	0.90	0.85	0.90	0.85
京都府	19.96	20.47	22.92	21.50	22.92
大阪府	31.58	30.53	30.60	33.40	30.60
兵庫県	5.38	5.25	5.23	5.60	5.23
奈良県	6.37	5.96	6.45	7.60	6.45
和歌山県	0.50	0.44	0.49	0.70	0.49
鳥取県	0.27	0.25	0.26	0.30	0.26
徳島県	0.38	0.32	0.28	0.40	0.28
■運輸局ベース					
北海道	11.44	9.14	6.76	11.44	6.76
関東	52.57	52.26	51.99	52.57	51.99
中部	11.23	11.26	11.89	11.23	11.89
近畿	34.63	34.70	36.72	34.63	36.72
九州	8.95	8.75	8.56	8.95	8.56

図6 月次訪問率の推移

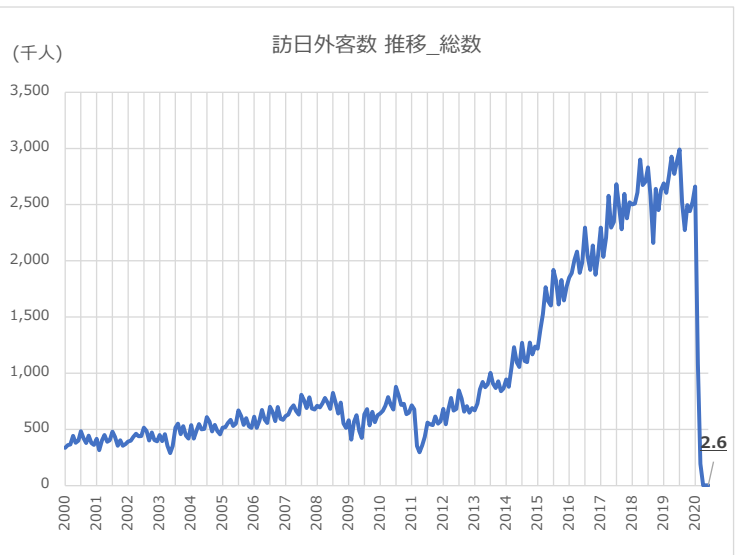


注: シャドウは実績値

表3 2020年6月 訪日外客数 (JNTO 推計値)

国・地域	総数 Total			総数 Total		
	2019年	2020年	伸率(%)	2019年	2020年	伸率(%)
	6月	6月		1-6月	1-6月	
総数	2,880,041	2,600	-99.9	16,633,614	3,947,000	-76.3
総数(韓国・その他除く)	2,175,088	810	-100.0	12,168,030	3,294,470	-72.9
韓国	611,867	100	-100.0	3,862,658	477,800	-87.6
中国	880,651	300	-100.0	4,532,465	1,022,900	-77.4
台湾	461,085	50	-100.0	2,480,849	689,760	-72.2
香港	209,030	10人未満	-100.0	1,097,889	344,910	-68.6
タイ	62,984	10	-100.0	683,595	215,340	-68.5
シンガポール	47,264	10人未満	-100.0	214,083	54,790	-74.4
マレーシア	30,534	10	-100.0	237,929	74,740	-68.6
インドネシア	49,290	20	-100.0	215,873	69,730	-67.7
フィリピン	46,842	50	-99.9	295,120	104,350	-64.6
ベトナム	35,419	100	-99.7	253,247	111,500	-56.0
インド	15,359	70	-99.5	92,940	22,540	-75.7
豪州	37,283	10	-100.0	326,906	142,660	-56.4
米国	175,491	100	-99.9	875,124	214,200	-75.5
カナダ	25,402	20	-99.9	183,769	52,760	-71.3
メキシコ	5,676	10人未満	-100.0	31,624	9,360	-70.4
英国	25,801	30	-99.9	185,698	49,810	-73.2
フランス	21,317	20	-99.9	160,310	41,320	-74.2
ドイツ	15,697	10	-99.9	118,479	28,620	-75.8
イタリア	11,357	10人未満	-99.9	74,768	13,140	-82.4
ロシア	8,844	10人未満	-100.0	55,940	20,770	-62.9
スペイン	9,762	10	-99.9	51,422	11,270	-78.1
中東地域	7,747	30	-99.6	46,070	7,080	-84.6
その他	85,339	1,630	-98.1	556,856	167,650	-69.9

図7 訪日外客数 推移



出所: 日本政府観光局(JNTO)、2020年7月15日付より筆者加工